

国語 第3学年 知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう」 教材名「もっと知りたい、友だちのこと / 【コラム】きちんとつたえるために」

2 単元の目標

相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。〔知識及び技能〕(1)イ)

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(A(1)エ)

相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる。この教材では、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

話題・理由・具体例のメモを用い、既に聞けたことと次に知りたいことを分ける。個人的に話したくない内容を尋ねない。想定する難しさは、用意した質問を順に読むだけで返答を聞かない。評価では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっているかを、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時：○話し手が学校で関心をもっていることを話す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第4～5時（本時）：○話し手が学校で関心をもっていることを話す。聞き手は内容を短く言い返してから関連する質問をし、返答を受けて知ったことをまとめる。話す間や声の抑揚も試す。 評価：思①（発言・

活動中の記録・作成物)

第4次 第6時：○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（A(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」

【めあて】相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる。

予想される児童の反応：・質問を用意したが、答えを聞いて変えたい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」

話し手が学校で関心をもっていることを話す。聞き手は内容を短く言い返してから関連する質問をし、返答を受けて知ったことをまとめる。話す間や声の抑揚も試す。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・質問を用意したが、答えを聞いて変えたい。

・理由まで聞くとよさが分かった。

指導上の留意点：話題・理由・具体例のメモを用い、既に聞いたことと次に知りたいことを分ける。個人的に話したくない内容を尋ねない。

想定する難しさ：用意した質問を順に読むだけで返答を聞かない。

評価では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっているかを、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

質問前後で詳しくなった友達の紹介メモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・理由まで聞くとよさが分かった。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」。中央は、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

